

## 授 業 科 目 の 概 要

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
健康スポーツⅠ	健康スポーツⅠでは、各種身体運動の方法を実践学習し、健康の保持増進と体力の向上、運動の意味や効果の理解を図りながら、運動することへの自覚を一層促進する。また、スポーツ活動を通して、運動や運動技術のみにとどまらず、集団のなかの一員としての役割等から協調性や社会性を身に付ける。内容については、準備運動（ストレッチを含む）の仕方、集団スポーツの学習、個人スポーツの学習からルール・技術・ゲームの仕方を学修し、生涯スポーツの取り組みを見据えた授業とする。
教職論(小・幼)	教職の意義と教師・保育者の職務内容を理解し、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士などに求められる資質や役割を知るための入門的授業である。教職の制度的位置づけを理解し、教師等の職務内容を講義やDVD視聴を通して学ぶことを目的とする。
発達心理学Ⅰ	保育所保育指針の発達項目、幼稚園教育要領、および小学校学習指導要領に関わる子どもの発達の理解を目標として、(1)児童期までの発達の規則性と里程標、(2)情動と認知の発達メカニズムと発達段階、(3)児童期以降の発達を支える乳幼児の遊び・生活体験、(4)親子関係の発達と社会化の支援、について基本的な事項を講義する。生涯発達心理学の観点から発達段階の役割を理解し、初期経験による人間発達の可塑性、発達心理学の基礎を学ぶ。
教育心理学(小・幼)	本授業では、教育現場に限らない幅広い教育活動での活用が期待される心理的知見について紹介する。具体的には、学習や記憶のメカニズム、動機づけに関する学習および認知心理学、学級内での人間関係やリーダーシップ、集団の特性や学級経営に関する社会心理学、パーソナリティや知性、社会性を含む発達心理学などに関連する内容を扱う。そして、授業を通して獲得した知見から、教育現場での活用方法について考え、教育心理学の理解を深める。
障害児発達教育論	障害児の教育や発達支援についての理解を深めるために、まず障害児の教育の歴史、障害児の発達支援・教育に関する基礎理論、わが国の特別支援教育の制度と現状について解説する。次に、特別支援学校における教育や通常学級における特別支援教育について解説する。最後に、障害児者の権利や教育に関する主要な理念、条約、法律、関係機関との連携について解説する。
体育Ⅱ	大型器具を使う遊び、手具を使う遊び、固定遊具での遊び、ルールのある遊び、鬼遊び、伝承的遊び等の子どもの運動遊びについて、幼児期から児童期への接続を考慮しながらその具体的内容について自ら実践し、体験をもとに運動(あそび)の環境設定や構成及び具体的展開のために必要な知識や指導技術を修得する。
子どもの保健ⅠA	現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について学ぶ。保育専門職として、平均的な子どもの発達と評価方法を理解し、子どもの成長・発達に関する基礎的な知識について学ぶ。また、この講義では子どもの精神保健についても理解を深めていく。

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
まちづくりと協働	<p>「持続可能性（Sustainability）」、「新しい公共」、「コミュニティの再生」などを主たるテーマに、「まちづくり」と「協働」の概念および、まちづくりにおいて協働が推進される社会的背景について学ぶことを目標とする。各地のまちづくりの具体的な事例を参照しつつ、地域住民・NPO・行政・企業・大学といった多様な主体が参画・連携したまちづくりのあり方について理解を深め、まちづくりにおける「協働」の意義と課題について議論する。</p>
観光まちづくり演習	<p>本科目では、島根県または和歌山県を対象に、観光を活かしたまちづくりについて学び、まちづくりに観光が果たす役割について議論する。食や町並み、産業、文化など地域の特性を活かした各地の観光まちづくりの取り組みを実践的に学びつつ、地域社会、地域資源、地域経済と観光との関わりについて理解を深める。また、演習を通じて、地域社会が抱く課題の本質を捉え、解決する力を醸成することを目指す。</p>
日本の歴史Ⅰ (文化史)	<p>天変地異を文化史の側面から考察し、江戸時代の人々が我が身に降りかかった天変地異をどのように理解したのか、そしてどのように対応したのかを検証する。天変地異を切り口として、過去もまたひとつの「異文化」であることを理解すること、ならびにわたしたちの文化と社会を相対的に捉える視点を獲得することが授業の目的である。授業は、毎回ひとつないし関連する複数の天変地異を取り上げ、当時の人々の記録を読み解きながら進めていく。</p>
日本語学概論Ⅰ	<p>他の言語と比較対照しながら、世界の中の日本語（口語を含む）がどのような言語かということ概観する。高校までは、外国語は英語しか学んでいない人が多いが、英語との対比のみで、日本語の特殊性を語ることの安直さを避け、様々な言語と比較対照することで、日本語への偏見（欲目 or 卑下）をなくし、言語そのものの性質を学ぶことを目的とする。具体的には、目標として、音声（子音・母音体系）・文字の体系・文構造（述語構造・副文構造・結束性 etc.）を学び、日本語の特徴を考える。この授業は、「日本語文法論」や「対照文法」などの基礎となる。</p>
近代文学Ⅰ (郷土文学)	<p>島根にゆかりのある①民話、②小説、③詩について、鑑賞と解釈を通して、地域の文化・風土、その土地の人の生き方に対する理解を深めることを目標とする。①民話について、約半世紀前に採集された出雲・石見・隠岐各地方に伝わる民話の語りを鑑賞し、民話の意義や特質について理解を深める。②小説について、専門基幹科目「しまねの文学探訪」で訪れた地域にゆかりのある作品について、さらに理解を深める。③詩について、島根出身の詩人の作品を鑑賞し、風土との関連などについて考察する。</p>
アジアの歴史 (東南アジア)	<p>日本と東南アジアは歴史的に密接な関係を築いてきたにもかかわらず、私たち日本人の同地域に対する知識はとても限られている。本科目では東南アジアの通史を「広く浅く」学ぶのではなく、東南アジア社会の転換点となった重要なトピックを取り上げ、その歴史的意義を深く掘り下げていく。また、近現代においては日本との関係に重点を置き、グローバル化が進む世界において、東南アジアの人びととどのような関係を築いていくべきか、受講者とともに議論したい。</p>

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
メディア英語Ⅰ (基礎)	<p>メディア英語の特徴について概観した後、現代社会が直面している各分野・各地域に関する英文ニュース記事を読みながら、文法、語法、語彙などについて学習する。具体的には、現代人が直面する健康問題を中心にした英文ニュース記事を中心に読みながら、英語読解と概要把握、ディクテーション、重要表現・構文を使った英作文、語彙力の確認などを行う。</p>
国語科教育法Ⅰ	<p>国語科教育の歴史的変遷と構造を体系的に理解するとともに、授業構想の起点となる教材と学習者について理解を深めることを目的とする。本科目では特に「読むこと」領域を対象とし、教材分析と指導内容の設定の仕方、授業を構想・改善・評価するための学力評価の方法について理解を深めていく。</p>
英語科教育法Ⅰ	<p>学習指導要領の記述内容を理解したうえで、英語教育学が扱う諸分野について書かれたテキストの内容を理論的側面と教育実践的側面から考察する。具体的には、英語教育の目的・目標、学習指導要領、学習者、英語教員、第2言語習得、英語教授法、コミュニケーション能力、4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）指導、文法指導、語彙指導、教科書・教材研究、測定・評価をテーマとして取り上げる。</p>
学校図書館論	<p>教師が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項について理解することを目標とする。学校図書館の理念と教育的意義、学校図書館の発展と課題、教育行政と学校図書館、学校図書館の経営（人、施設、資料、予算、評価等）、司書教諭の役割と校内の協力体制と研修、学校図書館メディアの選択と管理、提供、学校図書館活動、図書館の相互協力とネットワーク等について解説する。</p>